

2009 年度 学生評価

(1) 調査目的と対象者

この調査は、2009年度 NPO 協働型サービスラーニングのプログラムをふりかえり、「自己形成力」「活動先指導者の満足度」「教員の授業評価」について学生による自己評価をおこなった。

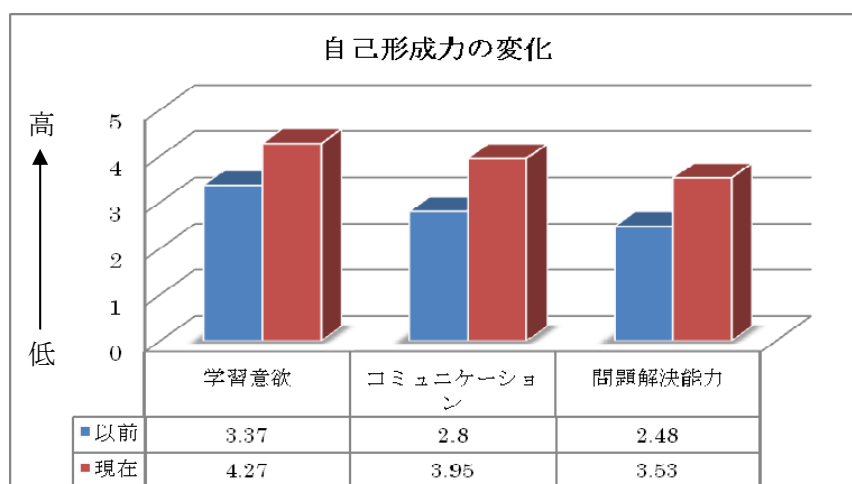
調査時期は、講義最終日をプログラム終了日と位置付け 2010 年 1 月 13 日に一次点調査とした。

調査対象者は、2009 年度 NPO 協働型サービスラーニング受講生 86 名（アンケート回収率：100%）

(2) 調査結果

①自己形成力について

自己形成力については、「学習意欲」「コミュニケーション力」「問題解決能力」の3項目について5段階で自己評価してもらった。



プログラム受講以前と現在を比較すると「学習意欲」「コミュニケーション力」「問題解決能力」それぞれの自己評価ポイントが大きく上昇している。特に「コミュニケーション力」(2.8→3.95)が上昇している。

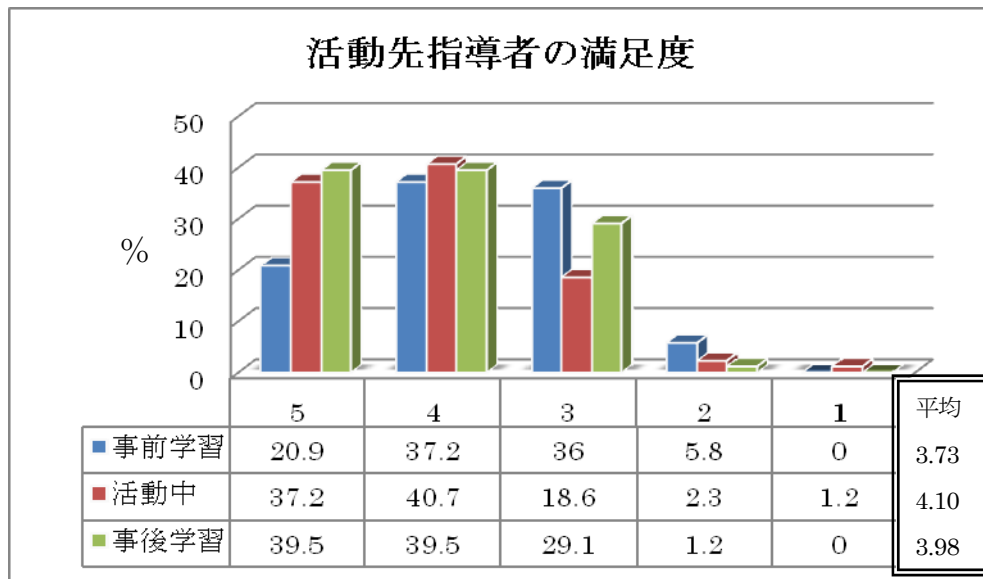
①-2 自由記述回答結果

自ら学ぼうという意欲がついた。
自分の思っていることをうまく自分の言葉で伝えられるようになった。視野が広がって1年前とは考えが明らかに変わった。
何かをやりきった達成感を知れた。
自分から積極的に声かけなどが出来るようになった。
今まで知らなかった視点を見つけられた。そしてその視点で動けるようになった。
物事に対し、積極的になることもできたし、障がい児分野にも興味を持ちました。
単純に知識が増えて深まった。サービスラーニングクラスだからこそ学べることを学べた。
NPO 法人はとても重要だと気づいたこと。
グループワーク能力、リーダーとしてグループを引っ張る能力

自分の意見を少し言えるようになった。
仲間と一緒に相手にうまく伝えるためにはどうすればいいか深く考えることができたと思う。
自分たちで計画をたてたり、まとめを行ったりという活動を通じて、考える力がついたと感じる。
積極的に話せるようになった。
笑顔を作る力
人とつながっていくための力を養うことができた。
自主性の向上
けじめをつけることの大切さを改めて理解し、プラスにすることが出来た。
”福祉”に対する見方が大きく広がったと思います。
活動する前に比べて全てにおいて積極的になれた
相手の立場に立って物事を考えることを学んだ
自分を客観視できるようになった

自主的・能動的な意見が多く挙がっている。また、新しい発見やコミュニケーション力が向上したという意見もみられた。

②活動先指導者への満足度



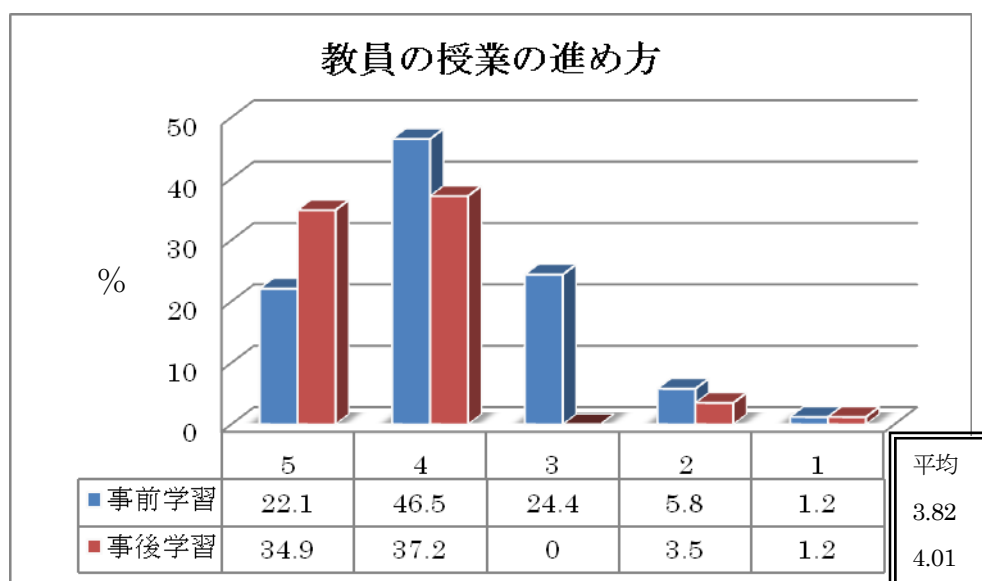
【凡例】
「5」満足
「4」どちらかという満足
「3」どちらかという不満
「2」不満
「1」非常に不満

活動先指導の満足度についてみて見ると、「満足している」^{*}は、「事前学習」(58.1%)、「活動中」(77.9%)、「事後学習」(79%)とプログラムが進むにつれて高くなっている。

平均ポイントでは、関わる機会がもっとも長い「活動中 (4.10)」が最も高かった。

※「満足」「どちらかという満足」の計

③教員の授業評価



教員の授業の進め方については、事前学習（平均 3.82）事後学習（平均 4.01）であった。

教員の授業の進め方については、「満足している」^{*}は、「事前学習」（68.6%）、「事後学習」（72.1%）、ともに約 7 割を占めている。

平均ポイントでは、「事前学習」が 3.82、「事後学習」4.01 をなっている。

自由記述回答から、今後の研究（学習）課題として「地域について」関心を示す回答が得られた。

地域について	構成要素数
地域やNPOとのつながり	13
何を求められているか	3
地域ニーズの把握	3
地域について	3
よりよくするための具体的な方法を考える	2
居場所の必要性	2
住民との関わり	2
地域と子どもとの関わり	2
他少数	13

※ 「満足」「どちらかという満足」の計

④今後の授業や活動へのつながりについて

「今後、どのような授業や活動につなげていきたいか」という設問に対して「現場実習」と回答した学生が48名と最も多かった。その他、やや具体性には欠けるが「来年度」「ゼミ」と言った次年度に目を向けようとする姿勢も伺えた。

構成要素	構成要素数
現場実習	48
来年度	14
ゼミ	11
地域	8
授業	5
ボランティア	4
学習	3
活動	3
将来	3
生活	3

※構成要素数3件以

上を掲載

※助詞、接続詞など意味をもたない単語は省略